

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300024		
法人名	有限会社こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番地		
自己評価作成日	平成26年6月20日	評価結果市町村受理日	平成26年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192300024-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192300024-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年7月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境で利用者・職員は共同生活を行っていく。地域住民との交流を積極的に行い、利用者がその有する能力に応じ、自立した楽しい日常生活を継続できるよう支援を行っていく。職員と利用者家族との関係を深め、利用者と家族の絆をより強いものにする。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、地域の寺社が母体であり、住民の希望や要請に応じて、開設に至った。管理者は、民生委員と看護師の経験を持ち、地域や家族の協力を得て、信頼を深めながら、家庭的な生活が継続できるように支援をしている。また、利用者が日々、楽しみながら過ごせるよう、全職員で活気あるホーム作りに取り組んでいる。毎年行われる記念行事には、家族と住民を交え、90人が来所し、手作り料理を味わい、歌や談笑で交流している。建物は、耐震の造りで、二重構造のスプリンクラーを設置し、災害時には、寺社と共にホームを地域に開放する体制をとり、近隣住民からは、頼られる存在となっている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念は玄関先に提示されており職員は出勤時に再確認している。グループホームの理念は事業者の理念として各事業所にも提示されている。	理念は、地域とのつながりや家庭的な生活環境という文言を主体としている。利用者の意志と希望を尊重した暮らしができるよう、日々の申し送りやケア会議で話し合い、実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校との交流会、中学校の資源回収への参加、民生委員のボランティア等、地域の一員として交流しています。	ホーム内の掃除や話し相手に、地元住民が日常的に訪れている。小学生とは、歌遊びやゲームなどを、利用者と一緒に楽しんでいる。地域の資源回収やボランティアとの交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お問い合わせ、入所の申し込み、施設の見学等に対して快く受け入れをし、丁寧に説明するように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告をふまえ、事故のないようにしたいという利用者家族からの意見を受け、ケア会議等で再発防止の為の改善案を出しそれを実行している。	会議は、区長・家族などの関係者が参加し、事故や運営上の課題を報告して意見を交換している。事故の再発防止や災害時の対応について、活発な意見を交わし、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加要請を必ず行い、実情の報告もその都度、行っている。	町から介護事業者の管理指定を受諾している。行政へは、こまめに足を運び、事例相談や介護保険についての手続きや申請を通し、良好な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を確保するための施錠はやむを得ないが、必要以上の施錠は行っていない。身体拘束は行っていない。	身体拘束の弊害は、全職員が認識している。拘束が必要な場合であっても見守りにより、拘束をしない方針をとっている。利用者は、2ユニット間を自由に行き来し、玄関は限定的に施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護において、虐待と認識できる行動は相互関係の都合上発生する場合があります、その場合は、ケア会議にて検討することになっている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	大半の利用者が今後(法律行為を行う等により)成年後見制度が必要になる。金銭面の相談を受ける事もあり、適切に回答することは困難であり地元金融機関とも時々相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしているので、署名や捺印を頂いていると認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から、利用者に関する職員への要望に関しては傾聴し職員内で出来る事は申し送りノートに記載し、情報を共有している。	家族の訪問が多く、その際、要望や意見を気軽に言ってもらっている。意見等は、申し送りノートに記載し、可能なことから、支援に結びつけている。職員の異動に関しては、遅滞なく、説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善提案についてはいつでも気軽に話して頂いている。即時対応が困難な提案については、ケア会議や事務所への稟議書として提案している。	職員からの意見・提案は、その都度、運営に活かしている。介助法や調度品などの購入、また日報の記載方法について、活発な意見があり、速やかに対応や改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート方式にて記入してもらっている。その意見は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており他のグループホームとの交流・意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は言葉だけで伝えることは困難であるので、インテークの際は、決して不安にさせるような発言は避けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望は必ず聞いている。最初は不安ばかりであるので、納得がいくまで聞いてもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先の課題をアセスメントの段階で職員と共有するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	既に入所されている方々は職員の顔も覚え、家族のような自然体でアットホームな暮らしを支援していると認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に訪問された家族には、積極的に利用者の現状を話すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人による面会もあり、馴染みの場所については家族に依頼し、外出支援を行って頂いている。	馴染みの化粧品店や美容院へは、家族と協力して、出かけている。自宅とホームの行き来は、見慣れた道を通っている。年末と正月は、できるだけ家族と過ごせるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、同じ生活の場であるという認識が強くなっているが、人間関係の悪化も懸念される時もあり、距離を置く等の対策も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭り等のイベントへの参加の案内状を出すなど関係を断ち切らないような取り組みを心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大半の利用者が希望、意向の訴えをする事が出来ない。その時、その瞬間に見える笑顔がより多くなるようなケアに努めている。	希望や意向を訴えることができない利用者が多い。週に3回、整備師による訪問マッサージでは、笑顔が見られる。日々の会話や表情などから思いを拾い上げ、その人らしく過ごせるように、支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からなかなか聞き取りが出来ないので、面会の家族等から色々な角度から質問し、情報を引き出す工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の観察をし、異変や特変があれば職員間で報告、相談をして皆で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づいた事、変化があった事等は申し送り、提案ノートに記入し、全員で検討し方針を決定している。計画作成者はその内容を踏まえ家族等とも相談している。	介護計画の課題は、ケア会議で定期的話し合っている。身体的な変化や退院時、要医療となった際は、全職員で評価をし、柔軟に見直している。	担当職員が、本人のモニタリングを行っている。さらに、家族の意向を確認し、本人がよりよく暮らせるような介護計画に期待をしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提案ノートに記入し、他の職員の意見を聞いたりしている。統一したケアの実現により近く方法だと認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出がしたいと言われれば、職員の人員を手厚く配置し買い物に出かけたり、寺にお参りがしたいと言われれば夕刻でも出かけたりするような柔軟性を持つようにしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学6年生が、授業の一環で福祉に関する勉強を行っており、年に一回訪問を受け交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族にも協力して頂いている。訪問診療も行っており、週に一度診察を受ける安心感を得られると家族にも好評を頂いている。	契約時に協力医のことを説明し、本人と家族の希望で選択している。週に1度の訪問診療と定期的な歯科医の訪問がある。受診は、基本的には職員が行うが、病院で家族と待ち合わせることもあり、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的変化はすぐに看護師に報告している。看護師が休みの時でも電話連絡をし、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間中でも面会回数を増やし、身体状況を都度確認し、職員間で情報を共有している。面会時に病院関係者と話す機会も増え、自然に情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針がある。家族の面会時に、今考えられるリスクを説明している。利用者の死生観、家族の死に対する意見も聞くようにしている。終末期に該当される利用者があり、出来るだけ利用者本人が安心して過ごして頂けるような配慮を心がけている。	ホーム内で、終末期の支援ができることを、契約時に本人・家族に説明している。状態の変化に応じ、主治医と家族、関係者で話し合い、方針を共有している。死生観に対する心の持ち方なども話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年5月、事業者全員参加での、緊急時対応に関する勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	先月火災を想定した避難訓練を実施しており、区長さんにも参加していただける様、前々回の運営推進会議にも提案している。	年に2回、消防署立ち合いの避難訓練を行い、消火器の使用法や避難誘導など、利用者と共に実施をしている。備蓄は、食料・飲料水などを確保し、災害時は、ホームを地元へ開放する体制である。	防災に関して、職員の危機意識が持続的であること、また、地域と協力しての自主訓練にも期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者は家族の一員との認識が強く、時として堅苦しい呼び方(呼称)をしない時があるが、それが全て人権を損ねているとは思えない。	一人ひとりを人生の師として敬い、自尊心を損ねない言葉かけを徹底している。その人の思いに寄り添い、笑顔で対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は最優先している。しかし、職員の構成、力量から、その思いに添えない場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間(生活のリズムの確保)は仕方ないかもしれないが、時間的には自由裁量を行っており、ペースは大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては、家族が持参されて衣服を着用して頂いている。外出される時に何を着ていったらよいか職員に尋ね、うれしそうに服を選ばれる姿が見られ、職員も一緒に選んで決めて頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部利用者には準備に参加して頂いています。最近では玉ねぎの皮むき、しその葉とり、ふきの筋むきなど出来る範囲で職員と一緒に取り組んでいます。	利用者の嗜好を考慮した献立となっている。職員も1日1食を食べて吟味をしている。利用者も食材の下準備を手伝っている。調理専門員は、家庭的な献立で、満足が得られるような食事づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護、看護記録に食事・水分摂取量を記載し、職員は常に数値を意識している。医師の指示がある利用者には特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは勿論のこと、定期的に訪問歯科診療を受けておられる方もあり、口腔ケアの大切さを認識している。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体的にトイレでの排泄が可能な利用者にはトイレ誘導を行うようにしている。排泄前のサインや言動を見落とさないように注意している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけにより、失敗を少なくしている。その結果、意志表示ができるようになった人も増え、おむつや紙パンツの使用量の削減に繋がった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便の有無を確認している。薬に頼ることもあるが、過去の病歴等から考慮し、服薬コントロールも必要な場合もあると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度の入浴を実施している。汚染時にはその限りではない。職員配置の都合上、リスク面も考慮して希望時間を全て個人に合わせることは物理的に不可能なのではないか。	2日に1度、日中に、機械浴や個浴で入浴を行っている。希望があれば、夜間の入浴にも対応をしている。職員と、1対1で入浴し、ゆっくりと会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で暖かい布団で眠って頂きたい。その思いから、シーツ交換表にて、布団の干し具合の管理も行っている。いつも清潔な布団を理想としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してはまず訪問診療等の医師が指示を出され、看護師が服薬セットを行い、飲み忘れが無いよう細心の注意を払って管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰心が強い利用者は、雨天でない限りお寺にお参りするために外出している。花の水やりも朝、職員と一緒に外へ出て実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当グループホームの経営母体はお寺であり、その寺に行くことを楽しみにしている利用者がある。普段行けない場所へは、家族の協力のもと、外出支援を依頼している。	個別に、買い物や商店街、喫茶店などへ出かけている。近隣の散歩や季節の花見などで外出している。その日の天候を見ながら、母体である寺詣りにも行っている。	



岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	二名の利用者がお金を実際に所有している。お賽銭や飲料水の購入に充当している。お金を所有していない利用者への影響も考慮しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族への電話は家族の了承のもと、余り行わないようにしている。利用者が希望し、その内容が家族に伝える適当な内容と判断した際に家族にまず職員が電話を繋ぐことを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から見える風景は季節の移り変わりを認識するには最適であると思われる。地元の田園風景が安心感を醸し出している。	居間や廊下の天井にある換気扇が、常に回り、快適な共用空間となっている。共用の間には畳の部屋や天然木のデッキを併設し、そこから山並みの風景を見渡らせる。また、各所にある椅子やソファで寛ぎ、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の間でも口論が起きたりすることがある為、共有スペースを利用されている時は、距離を置いて座って頂く等の配慮も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れた物を持参して頂くように依頼している。持ち込みに関して制限はしておらず、各利用者は自分の居室(自宅)との認識が高いと思われる。	居室の壁紙やカーテンは、部屋間違えがないよう、色目を変えている。自宅から家具やタンスを持ち込み、使いやすく置いている。冬物や夏物の入れ替えは、職員と一緒に関わっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示す貼紙をしたりして自分の居室に迷わず戻ることができる等の工夫をしている。		